

評価問題例

- 1 つぎの じいさまの ことばは どのように よんだら よいでしょう。□の中
から 2つ えらんで こたえましょう。

じいさまは、ぬれて つめたい じぞうさまの かたやら せなかやらを なでま
した。

「そうじゃ。この かさこを かぶって くだされ。」

じいさまは、売りものの かさを じぞうさまに かぶせると、風で とばぬよ
う、しっかり あごの ところで むすんで あげました。

ぼそぼそと はっきりと さげぶように
かなしそうに うれしそうに しんぱいそうに

- 2 なぜ、そのように よんだら よいと おもったのですか。りゆうを かきましよう。
- 3 上のぶんしょうを声を出してよむとき、どのようなことに きをつけて よみますか。
2つかきましよう。

<その他、やや発展的な問題例>

- 4 「なでました。」をよむとき、どのような気持ちをこめてよんだらよいでしょう。
□の中
から 2つえらんで こたえましょう。

うれしい かわいそう たのしい うらやましい かなしい

評価問題のポイント

本時の授業で学習した内容を違った場面で活用することができるかを問う問題である。

「1」では、「じいさま」の話しぶりと気持ちに着眼できるように、それぞれ選択肢を示した。低学年において手がかりとなる語を示す際には、それぞれ意味が対照的であるなど、相互の違いが明瞭な語を選ぶことが必要である。

「2」では、選択した理由を自由記述で書かせている。「1」で示した2つの着眼点に即して、「おじぞうさまに話しているから、はっきりと話した方がよい。よい方法を思いついたから、じいさまはうれしいと思う。」などの解答を想定している。

「3」は、第1次の学習の定着状況を見るための設問である。このような問題に取り組ませることで、これまでの学習内容を整理し、他の学習場面にも活用できる知識・技能として意識させることが重要である。そのためにも、毎時間の「振り返り」を充実させることを大事にしたい。

「やや発展的な問題」は、人物の動作に伴う心情がとらえられているか見る問題である。会話部分だけでなく、人物の動作から気持ちを想像する学習も重ねていきたい。なお、解答は「かわいそう」「かなしい」のいずれかを想定している。